

種 目：沢登り
山 域：峰山・小田原川・掛ヶ谷&本谷
場 所：兵庫県
日 時：10/4
天 候：晴れ
メンバー：石野・大塚・大本

今日は秋晴れの快晴も手伝って一時間で行ける峰山の掛ヶ谷と本谷を攻めてみることにした。

まずは掛ヶ谷を朝一番7時過ぎから遡行開始した。

掛ヶ谷の主だった滝・・・一ノ滝6m、二ノ滝2段20m、三ノ滝3段30m

墓地の駐車場に止めて、林道終点から山道に入り始めるころに沢筋に降りて遡行すると、どこから流れてきたのかとんでもなく大きな巨岩だらけに圧倒される。少し行くとその岩が緑の苔に覆われてきて、雑木のあいだから木漏れ日が差し込み、深山幽谷のモノノケの世界に形相を変えてくる。

小滝が休む間なくどんどん現れてやがて左側が20mから30mの岩壁がそそり立ちゴルジュとなってくる。まずは6mの一ノ滝、右側の岩肌に打ち付けてあるハーケンをたよりに石野氏がフィックスを張ってくれてそれにしがたって進んで行くのだが、私は一つ目の



一ノ滝2俣6m



二ノ滝2段20m



三ノ滝3段30mの見事なビッグフォール



深山幽谷の世界へ

ハーケンからぶら下がっている針金を持ったとたんにプチ切れてロープをしていなかったらヤバイところであった。

それからも滝はどんどんと続くが、どれも巨岩でふさがれてカブリ気味のチョックストーン状態でとても攀じれない、くやしいがほとんどを右から巻くことにする。

2段20mの二ノ滝は二俣の真ん中をハーケン打ちながら慎重に攀じれば行けそうな気もするが無難に右の樹林の中を巻いた(くやしい~)。

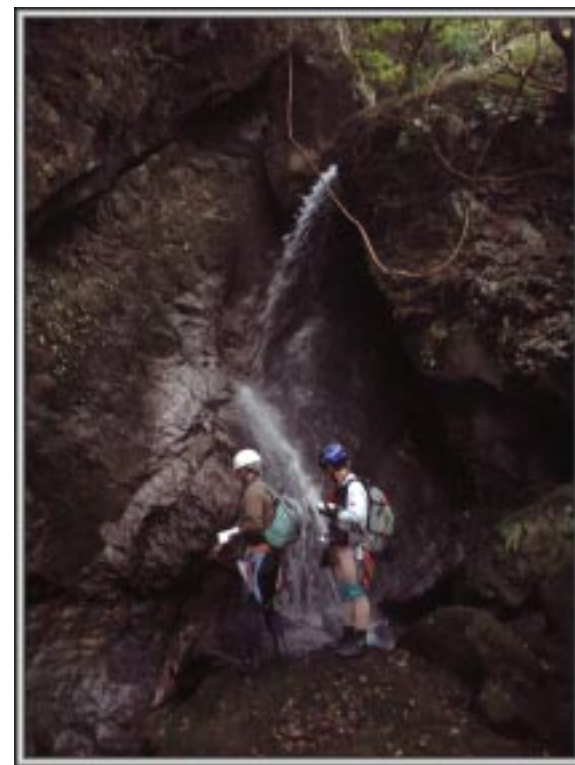
3段30mの三ノ滝は素晴らしく、流れ落ちる水流が生きているかのように途中で弾け飛んで水滴となり優美な姿をかもし出している。これは右手前のルンゼから高巻き滝頭に降りた。続いて素晴らしい10mのナメ滝が現れるが真ん中



いきなりのヘツリ



両股開きでこらえる



さて、どこから攀じろうか



見事なアケビ

付近から逆層になっており右に逃げ込む。

最後は池手前の2俣の30mのか細いナメ滝で締めくくりである。池付近では見事な紫に熟れたアケビの実にありつき甘い種を口一杯に含んで潤った。帰りは沢横の山道を下る。



斜爆 5m



階段 3m

峰山周回林道も悪きか良きが変わり果ててアスファルト舗装をするがために工事が進んでいる。2年前までは素晴らしい？ダートでMTBで駆け回っていたのこれからはロードレーサーになりそうだ、また冬のクロカンスキーも雪少ない時はストックがカチャカチャになりそうだ(>_<)。

車で峰山の黒岩ノ滝上部まで移動する。

本谷の主だった滝・・・黒岩ノ滝 10m
黒岩ノ滝上部から沢筋の山道を下り高度570m付近でブッシュををかき分けて沢に入渓する。やはり巨岩が多いが掛ヶ谷と違うところは苔むしておらず、沢全体が広くて明るい。

2mから5mの滝が次々と現れるがどれもこれも滝壺らしきお釜を従えていて真夏に泳ぎながら滝の直下にたどり着き攀じればまた違った楽しみかたが出来て面白いだろう。今回はヘツツでは本流を上り巨岩を八艘飛びのように飛びまくり、あっという間に黒岩ノ滝下部までたどり着いた。ここで最後の正念場とばかりに大本が10mのシャワーで見事に本流を直登した。遡行終了14時40分。

帰りは峰山のホテルリラクシアの露天風呂で体を癒し帰路につく。



黒岩ノ滝 10m



8m ナメ